

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201107		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム 第2 からまつ さくら草ユニット		
所在地	札幌市北区屯田11条1丁目2番5号		
自己評価作成日	令和3年3月15日	評価結果市町村受理日	令和3年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201107-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣には自然が多く、四季折々の草花が窓辺から見られます。建物は、段差のないフローリングで、対面キッチンからは、入居者様の様子も見える作りとなっています。食事の席の他、ソファ席を設け、他入居者様や職員と談笑したり、新聞を読まれたり、くつろぎながら、個々のペースで快適に過ごして頂いています。コロナ禍の影響で外出が困難になっていますが、雪のない季節には創成側近辺を散歩し、カモの泳いでいる姿に感動されていました。敷地内でバーベキューや、畑仕事など、コロナ禍が収束した際は、以前のような外部との関りにも力を入れていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 第2 からまつ」は、創成川通と交差する横新道に面した、静かな住宅地に立地している2階建て2ユニットのグループホームである。バス停から徒歩5分程と交通の便もよく、創成川の河川敷を散歩しながら四季の移り変わりを感じることができる環境である。共用空間は、明るく開放感のある居間と食堂を中心に居室が配置された造りで、見通しがよく安心して過ごすことができる。利用者と一緒に制作した季節の装飾もさりげなく飾られており、家庭的な温もりが感じられる。新たに着任した管理者は、前任者と密に情報交換しながら利用者一人ひとりが笑顔で穏やかな日々を過ごせるような温かなケアと運営に真摯に取り組んでいる。また、法人のバックアップの下、職員の育成と各職員の意見や提案に耳を傾けて働きやすい職場環境の整備に努めている。ケアマネジメントの面では、センター方式B-3シートを活用して、各利用者の思いや意向に寄り添い、その人らしい生活が送れるように全職員で支えている。行政との連携では、常に情報交換しながら協力体制を整え何かあれば直ぐにアドバイスをもらえる関係を構築している。今年度は感染症の流行により面会や外出ができなかったが、収束状況に応じて面会方法を検討したり外出支援も行っていきたいと考えており、常に前向きに運営とケアに取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を念頭に、自分らしく穏やかな生活が過ごせるように支援する基本理念があり、常に意識できるよう、フロアの見える位置に掲示し、実践につなげている。	「地域や自然と関わりを持って あたりまえの生活を自分らしく過ごせるように支える」という地域密着型サービスの意義を踏まえた基本理念を掲げている。介護理念は日々唱和しているが、職員間で基本理念を確認する機会は少なくなっている。	全職員で基本理念を定期的に確認し、地域密着型サービス事業所としての社会的役割の認識につなげるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の無い地域の為、隣の町内会に声をかけ、交流を持とうとしている。	感染症の流行前は、バーベキュー開催時などに近所に挨拶することもあった。現在は近隣のガソリンスタンドを利用するなど、地域の一員として交流に努めている。感染症終息後は、ボランティアや子供たちとの交流も増やしていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	迷子になっている高齢者がいるが、どう対応していかかわからない。と地域の方に頼って来ていただけことがる。地域の方ご自身が実際に対応出来なくてもここなら何とかしてくれる。と言う思いを持っていただけるようになってきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月に開催しており、活動報告・事故報告などを行い、参加者の意見や課題を検討しているが、通気住民の参加が全くなく、運営推進会議の場を生かしていない。	現在は書面会議を開催し、事業所内の報告を行っている。議事録は役所に提出しているが家族には送付していない。町内会組織が無いため、地域住民の参加も得られていない。今後は、全家族に議事録と役立つ情報資料などの送付も考えている。	感染症終息後は、全家族にテーマを記載した会議案内と議事録を送付するよう期待したい。また、行政などに相談しながら、地域住民の参加も得られるような取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は、市・区の会議に参加し、情報の交換を行ったり、運営推進会議には地域支援包括の職員にも参加していただき、情報の交換を行っている。	市役所に入居者情報を提出したり、区役所の介護保険課や福祉課と情報交換しながら利用者支援や運営に活かしている。介護保険の更新手続きや区分変更などで役所を訪問することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	引越しを機に、玄関の施錠を中止した。センサーの設置により、危険な外出を防ぐとともに、外気に触れたい時の対応を速やかに行えるようにしている。職員研修を行い、身体拘束について、正しく理解できる機会を設けている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した、法人共通マニュアルを整備している。スピーチロックなどについても研修を行い、拘束のない支援を行っている。研修後に全職員が報告書を提出しているが研修内容が分かりにくいいため、資料などを添付して分かりやすく整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の内部研修で虐待について学ぶ機会を設けている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの協力の元、成年後見人制度を利用できた方がいる。また、市の自立支援制度をご家族に伝え、利用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・需要事項説明書など、説明し、不明な点や、不安に思っている点を聞き、納得できるまで説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来苑された時は日常の報告を行い、ご本人やご家族の思いを聞き、日々のケアに反映させている。	感染症の流行により面会が難しいため、電話で意見や要望を聞き取り、連絡ノートや支援相談記録に記入している。今後は広報誌や個人便りを発行し、利用者の様子を伝えていきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員の意見や要望に耳を傾け、朝の申し送り時などに他の職員とも、その意見や要望に対し、話し合い、反映している。	朝夕の申し送りで意見交換しながら、個々に応じた適切な支援に取り組んでいる。管理者は普段から職員の意見や提案を聞き取り、可能な限り反映させている。個人面談を随時行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は正社員制度を確立させ、個々の能力に応じ評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や個々の能力に応じ研修を受ける機会を設けている。また、資格取得に向け、費用を負担し、働きながらスキルアップできる環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市や北区の管理者連絡会に参加し、情報の交換を行っている。また、ふれあいネットワークに参加し、他のGHとの情報交換に努めている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学時にご本人が不安に思っていることや困っていることを聞き、どのような対応が出来るかを話し合い、少しでも安心して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時にご家族が不安に思っていることや困っていること、ご家族にしかわからない利用者の性格や生活歴をうかがい、ホームではどのような対応ができるのかなどを話し合い、信頼関係を構築する努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様からの情報をもとに、まず何が必要かを見極め、他のサービスの情報提供も含め、説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の負担にならない範囲で食器拭き、洗濯たたみなど手伝って頂く。また、ご本人の居室の掃除も一緒に行うなどし、生活に役割を持っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中での情報を伝え、家族様からも今の思いを聞き入れ、その中で信頼関係を築いている。現在はコロナ対応として家族様との面会はできないが、電話で情報確認を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様からの情報、ご本人からの話を聞きアルバム等使用して思いの継続に努めている。忘れてしまわないように。現在はコロナ対応として、家族様との外出はできない。	感染症の流行により来訪者はいないが、知人から電話がくる利用者もいる。感染症の収束状況に応じて家族や知人との面会方法を検討したり、馴染みの場所への外出支援も行いたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誰となく歌い始め、民謡など大きな声で歌い、楽しまれることが多く、職員も仲間に入り、少しでもこの状況が長く続き、楽しめるよう支援している。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去された方なども、お見舞いに行き、様子をうかがい、今の状況をご家族に連絡したり、今の状況をご家族から聞き、心配なことはないか、お声掛けをさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や、利用者の動きを観察しながら一人一人の思いや意向を把握している。アセスメントシートの定期的な見直しなども行い、常に新しい情報を把握し、その方の不利益にならない援助を心掛けている。	会話や表情、発語や仕草などから思いや意向を把握している。センター方式Dシートの他、新たにB-3シートを作成して本人の思いの現状把握に活かしている。変化に応じて追記し、定期的に書式を更新する予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から情報をもらっているが、面会時など、新しい情報が聞き取れる事もある。ご本人との話の中や、動きの中から情報を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活の中から出来る事、できないことを把握し、職員間で共有している。また、出来なくなってきたも、時には出来る事があるので今までできたことは継続して見守っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を更新する際は計画担当者が中心となり、家族の要望を確認し、担当職員と一緒にモニタリングし評価・問題の課題を見つけプランに反映させている。	利用者担当職員を中心に全職員で評価し、計画作成担当者が3か月ごとに介護計画を作成している。介護計画1表の意向を計画につなげたいと考えている。介護記録は、サービス内容に沿った記録が抽出しやすいタブレット端末入力を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録・情報の共有の必要性や重要性を認識しており、毎日の申し送りでの日の気づきを申し送ったり、連絡ノートで周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急に状況が変わる事は多々あり、どのような支援が必要か都度職員は意見を言い、試に行ってみる等実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナの環境の中で、地域とのかかわりができないでいる。施設では1・2階の移動で気分転換を行ったり、別の階の職員とのかかわりを持ち、楽しく過ごしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度の訪問診療を受けている。整形外科や、眼科などは事業所で通院支援し、かかりつけ医には、結果を伝えるなどし、適切な医療を受けられるよう、支援している。	全員が協力医療機関の往診を受けている。家族とかかりつけ医などを受診する時は、健康状態を書面で伝えることもある。受診と往診の状況は個別に記録し、職員間で情報を共有している。	

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受け、健康チェック・医療の指導、指示を受けている。また、日常生活の中での注意点など助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護添書にて日常生活を伝え、入院中にも利用者が不自由がなく安心して医療が受けられるよう支援している。入院中も利用者への顔出しは意識しており、不安の軽減を図り、病院とも治療状況を聞き、早期退院にむけて取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、重度化した場合の対応に係る指針として説明し、同意を得ている。また、身体状態が変わってきたときは、医療機関と相談し、検討している。その結果を家族に伝え、時にはかかりつけ医との面談をして頂いたり、事業所で出来る事の説明を行い、方針を決めている。	「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、利用開始時に事業所として可能な対応について説明している。体調変化に応じて主治医の判断の下、家族、事業所と一緒に対応を検討し適切な支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを各職員が把握し対応できるようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、内、1回は災害時を想定しての訓練を計画している。近隣の住民には今後も避難訓練参加の呼びかけを行っていく。職員の救急救命講習を2年に1度は受けれるように計画している。	今年度は昼夜の火災を想定した自主訓練を2回実施しているが、消防署の協力を得た訓練は最近実施していない。災害備蓄品を整備し、職員の普通救命講習の受講も計画的に進めている。地震時のケア別対応について話し合いたいと考えている。	感染症終息後は、消防署の協力を得た避難訓練を実施するよう期待したい。また、行政などに相談しながら地域との協力体制を築く方法を検討するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室を尋ねる際もノックし返事を待ってから入るなどプライバシーにも気を付けている。気になる言葉に対して、職員同士で注意がしづらい時は管理者に報告し、管理者から注意をしている。	資料を基に不適切なケアを学び、利用者の言動を抑えない対応を心がけている。日々の記録はタブレット端末を使用し、当日の排泄チェック表なども見えない場所に置き個人情報に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現できる方には聞く耳を傾け、思うように表現できない方には言葉を選び、自己決定が出来るような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間など日課の中で決まっていることもその時の気分やペースに合わせて自己決定できる声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装や行事・外出などご本人の選択を優先し、季節に添ったおしゃれが出来るよう声掛けを行っている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	バイキング・出前寿司・外食など楽しみがあったが、現在はコロナ対応できていない。入居者様の状態に合わせて、食器拭き等、お手伝いを一緒に行っている。	献立表に季節の行事食も入っているが、寿司の出前を取り寄せることもある。誕生日はおやつの際にケーキなどでお祝いしている。感染症防止のため調理やおやつ作りへの参加は見合わせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士が作ったメニューで提供している為、栄養バランスは取れており、食事の量も年齢や性別などその方に合せて加減している。チェック表を用い食事・水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行い、しっかりと磨けない方は仕上げ磨きの介助を行い清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用い、日中・夜間の排泄パターンを把握している。なるべくトイレでの排泄が行えるように必ずトイレ誘導を行い、排泄状況に応じ誘導時間を変えたりしている。行きたくない時もあるが、行きたくなるような声掛け路している。	全員の排泄を記録し、立位・座位保持が可能であればトイレでの排泄を支援している。パッド類も日中は小さいのに替えるなど、状態に合わせて衛生用品を検討している。自分でトイレに行く利用者も多く、羞恥心に配慮しながら声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取などで便秘予防に取り組んでいると同時に、廊下歩行やストレッチ体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員配置の都合から平日午後入浴を行っており、ご自身のペースを決めている方がいるので、曜日を決めて、その日の気分や体調で、翌日に変更する等、無理せず、楽しい入浴時間を摂れるよう配慮している。	土、日を除き、曜日によって午前、午後の時間帯に入浴を支援している。入りたい時間帯や湯温などの希望を聞きながら入浴が楽しめるように対応している。身体的な状態で湯船に入るのが難しい場合は、安全にシャワー浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れすぎると寝付けない事が多いようなので、昼食後は極力お昼寝を勧め、程よい休息を取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の情報書は個々のファイルに入れてあり、いつでも見られるようにしてある。薬の変更があったときは申し送りやノートにて全員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日めくりカレンダーをめくる係りや、花の水やりかかり等、自然と自分の係りが決まっている。夏には散歩に出かけたり、畑仕事を行ったりと、好きな楽しみを行っている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ対応として外出支援は行っていない。	今年度は感染症防止対策で外出は行っていないが、通院時に車窓から景色を眺めることもある。今後感染症の終息後には以前のように周囲を散歩したり、外出行事や家族との外出で季節感を感じることができるよう考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針で金銭の預かりはないが、いくらかの金銭を持っている方もいる。希望があれば買い物に出かけたり、立替として買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があれば、はがきを買ってくる、手紙を出すなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に合った飾りつけは、利用者にも手伝ってもらい作品を作り、掲示している。また、場所が分かりやすいように表示をしている。	居間には食卓テーブルと別にソファ席を配置しゆったりと寛げる。レクリエーション用具や新聞なども置き、楽しめる家庭的な環境づくりをしている。壁にはクラフト紙を素材に散りばめられた桜の花と塗り絵が飾られており、春らしい温かな雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合った者同士、話をしたり、歌を歌ったりと、自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には大切な方の遺影を置いている方もおり、ご自身でお水を取り替えたり、テレビを置き、一人で気兼ねなくテレビを楽しむなど思い思いの時間が過ごせている。	居室には備え付けのクローゼットがあり、室内に家具類や小物類、仏壇、鏡などが持ち込まれている。ラジカセやテレビを観て楽しみ、趣味の読書をして好きなように過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内はバリアフリーになっており、手摺を設置し安全に移動できる。居室には表札をつけ、トイレなどの表示もわかりやすく表示することで一人で行動できる環境を作っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201107		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム 第2 からまつ 月見草ユニット		
所在地	札幌市北区屯田11条1丁目2番5号		
自己評価作成日	令和3年3月15日	評価結果市町村受理日	令和3年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvgsyoCd=0170201107-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣には自然が多く、四季折々の草花が窓辺から見られます。建物は、段差のないフローリングで、対面キッチンからは、入居者様の様子も見える作りとなっています。食事の席の他、ソファ席を設け、他入居者様や職員と談笑したり、新聞を読まれたり、くつろぎながら、個々のペースで快適に過ごして頂いています。コロナ禍の影響で外出が困難になっていますが、雪のない季節には創成側近辺を散歩し、カモの泳いでいる姿に感動されていました。敷地内でバーベキューや、畑仕事など、コロナ禍が収束した際は、以前のような外部との関りにも力を入れていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を念頭に作成した基本理念があり、常に確認・意識できるようリビングに掲示し毎朝の申し送り前に唱和し、理念を再認識し、実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の無い地域の為、隣の町内会に声をかけ、交流を持とうとしている。現在はコロナ禍にて自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	迷子になっている高齢者がいるが、どう対応していいかわからない。と地域の方に頼って来ていただけことがある。地域の方ご自身が実際に対応出来なくてもここなら何とかしてくれる。と言う思いを持っていただけようになっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月に開催しており、活動報告・事故報告などを行うが、現在はコロナ禍にて行っていない。書面にて報告をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は、市・区の会議に参加し、情報の交換を行ったり、運営推進会議には地域支援包括の職員にも参加していただき、情報の交換を行っていたが、現在コロナ禍にて行っていない。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	引越しを機に、玄関の施錠を中止した。センサーの設置により、危険な外出を防ぐとともに、外気に触れたい時の対応を速やかに行えるようにしている。職員研修を行い、身体拘束について、正しく理解できる機会を設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の内部研修で虐待について学ぶ機会を設けている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの協力の元、成年後見人制度を利用できた方がいる。また、市の自立支援制度をご家族に伝え、利用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・需要事項説明書など、説明し、不明な点や、不安に思っている点を聞き、納得できるまで説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響により、お手紙で日常の報告を行い、ご本人やご家族の思いを聞き、日々のケアに反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員の意見や要望に耳を傾け、朝の申し送り時などに他の職員とも、その意見や要望に対し、話し合い、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は正社員制度を確立させ、個々の能力に応じ評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や個々の能力に応じ研修を受ける機会を設けている。また、資格取得に向け、費用を負担し、働きながらスキルアップできる環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市や北区の管理者連絡会に参加し、情報の交換を行っている。また、ふれあいネットワークに参加し、他のGHとの情報交換に努めている。現在はコロナ禍にて自粛している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学時にご本人が不安に思っていることや困っていることを聞き、どのような対応が出来るかを話し合い、少しでも安心して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時にご家族が不安に思っていることや困っていること、ご家族にしかわからない利用者の性格や生活歴をうかがい、ホームではどのような対応ができるのかなどを話し合い、信頼関係を構築する努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様からの情報をもとに、まず何が必要かを見極め、他のサービスの情報提供も含め、説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の負担にならない範囲で食器拭き、洗濯たたみなど手伝って頂く。また、ご本人の居室の掃除も一緒に行うなどし、生活に役割を持っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にて面会ができないが、ご家族との電話でのコミュニケーションの支援、体調の変化などはこまめに電話で報告し、情報の共有をし、暮らしをともに支えあっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて外出はできていないが、生活歴から話題を引き出し、思い出話を傾聴、共感し穏やかに生活できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段居室で過ごす時間の長い方には職員が声をかけフロアで談笑したり、他の利用者をその中の仲間に入れ一緒に話したり笑ったりする環境を提供している。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去された方なども、お見舞いに行き、様子をうかがい、今の状況をご家族に連絡したり、今の状況をご家族から聞き、心配なことはないか、お声掛けをさせていただいている。現在はコロナ禍にて行えていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活を職員が把握し、表情や言葉で思いや意向を汲み取り、ご本人の思う生活ができるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人についての情報はもらっているが、入居後も聞き漏らしている新たな情報をいただき、常に反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や言葉で精神状態、身体状態を把握、職員同士で情報交換を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの情報をもとにご本人の普段の様子や今の身体や精神状態に合わせたプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイパットを使用し経過の把握を行っている。その時の表情や言葉など具体的に記入しており、状況の変化などがみられる時は送りノートにて情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	働いているご家族も多いので、受診などは極力ホームで対応し、ご家族に負担にならないようお手伝いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域支援包括の助言を生かしたり、市で行っている様々なサービスを利用できるよう情報の提供を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度の訪問診療を受けている。整形外科や、眼科などは事業所で通院支援し、かかりつけ医には、結果を伝えるなどし、適切な医療を受けられるよう、支援している。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受け、健康チェック・医療の指導、指示を受けている。また、日常生活の中での注意点など助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護添書にて日常生活を伝え、入院中にも利用者が不自由がなく安心して医療が受けられるよう支援している。現在コロナ禍にて入院中の利用者への顔出しは行っていない。、病院とも治療状況を聞き、早期退院にむけて取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、重度化した場合の対応に係る指針として説明し、同意を得ている。また、身体状態が変わってきたときは、医療機関と相談し、検討している。その結果を家族に伝え、時にはかかりつけ医との面談をして頂いたり、事業所で出来る事の説明を行い、方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを各職員が把握し対応できるようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、内、1回は災害時を想定しての訓練を計画している。以前は近隣の住民には避難訓練参加の呼びかけを行っていたが、。コロナ禍の為、施設内のみで実施している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を持ち、あいさつ・声掛けを行っている。個人ファイルなどは事務所に保管し、記録を書くときには、内容が見えないよう工夫をし、申し送りは利用者から離れた場所で、小声で行うなど気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴など声掛けを行い、ご本人の気持ちを確認したり、表現が難しい方には具体的な表現で理解をして頂ける様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアで過ごししたり、居室で小物を作ったり、その日の状態により過ごし方を選べるように声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等自分で選べるよう声掛けし、また、理美容の際は自分で髪型を決められるよう具体的な声掛けでご本人の思いをくみ上げている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルセット・テーブル拭き・食器拭き等、それぞれ出来ることを一緒にやっている、また、出前を活用し、気分を変えて楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士が作ったメニューで提供しているのでカロリーバランスは取れている。形状も一人一人の嚥下状態に合わせて形状を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け、できない方については介助行き、状態によっては訪問歯科の受診を受け、口腔内のいい環境を意識している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄状況や時間間隔など把握し、日中は特にトイレでの排泄が出来るよう声掛けし誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、ヨーグルトやゼリー等の提供、適度な運動の声掛けも行っている。状態により、坐薬または浣腸の受診を受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っているが、状態により、シャワー浴、足浴、清拭と個別の支援を行っている。タイミングが合わず、入浴できなかった時は翌日に再度声掛けを行い、気分よく入浴できる工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動、気持ちの良い入浴により、睡眠できるよう過ごし方を見守り、また、昼寝等様子に応じて進めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療時、変更のある薬の記録を行い、説明書により確認を行い、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事の飾りの準備、お手伝い、レクリエーションではゲーム、トランプ歌等で時間を過ごしている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて不要不急の外出の支援は行っていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針で金銭の預かりはないが、いくらかの金銭を持っている方もいる。現在外出はできない為、立替として買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけられる様支援おこなっている。また、かかってきた電話についても話が出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・行事に合せたかざり付けを行い、見て楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの部屋へ遊びに行き、談話されたり、一人で過ごしたり、またはフロアでテレビ、新聞を見たり、今のソファへ座ったりそれぞれが動き、過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、居室はそれぞれ家具、写真などの飾り物で整理されている。掃除の際は希望があれば配置を替え、気分を変えて過ごしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	オールバリアフリーになったため、フロア内を歩き、運動をする方や、場所の表示を大きくすることで、トイレなど、迷わず一人で行けるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム第2からまつ

作成日：令和 3年 4月 11日

市町村受理日：令和 3年 4月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	基本理念に地域密着型サービスの意義を踏まえたものはあるが、介護理念には地域との関りについての文言はない。申し送り前に介護理念を唱和しているが、地域密着型サービスとしての意識付けには弱い所。	地域密着型サービスの意義を確認すること。日々の生活の中に、地域や自然と関わることの大切さや、あたりまえの生活を職員それぞれが感じ、意識して対応できる。	基本理念も一緒に唱和し、意識向上に努める。コロナ禍ということもあり、地域資源の活用も困難な所ではあるが、終息後にどのような事に取り組み、実践していくかを検討したい。	1年
2	4	現在は役職者のみで開催。レジュメ、議事録共に、ご家族への発送はしていなかった。事業所内の状況報告のみで、特色もなし。	状況報告のみではなく、毎回テーマを決めて、取り組みなどを記載していく。今後はご家族にも送付する。コロナの終息後は、ご家族や地域住民の参加も得られる様に、興味を持てるような会議を実施する。	4月開催に向け、テーマを決めて取り組みを開始している。(別紙で資料作成)次回の開催までに、ご家族からの要望を聞き取れるように一文を入れる。コロナの状況により、参加して頂けるかは先になるが、その間に、興味を持ち、参加意欲に繋げられるように取り組んでいく。	半年
3	35	年2回の火災避難訓練は実施しているが、地震・災害については行われていない。訓練時に消防署の要請希望をしておらず、職員のみで実施した。救命救急講習に関しても、コロナの影響により行っていない。	消防署の協力を要請し、講評を頂き活かせるようにする。消火器(水)訓練を通じ、地域住民の参加を呼びかけ、今後の協力体制に繋げる。他の災害時の対応や、応急処置・救命についても、職員全員が周知できる。	コロナの影響で、自衛消防訓練になる事も考えられるが、その際には、注意点など教えてもらい訓練に活かすようにする。応急処置や救命に関し、マニュアルを再度確認し、内部で研修を実施する。他の災害についても、ハザードマップなど確認し、マニュアル整備し確認できるようにする。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。